

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **62** 2017
November

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.5

看護学科
オープンキャンパス2017を
開催しました



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.5	3
看護学科オープンキャンパス 2017 を開催しました	4
西日本医科学生総合体育大会が開催されました	5
平成 28 年度計画の業務実績に対する評価結果	6
附属病院 A 棟の改修が始まります	6
新キャンパス整備の現状と今後の予定を紹介します	7
図書館だより	8
MBT 研究所だより	9
E 棟部門紹介	10
排尿ケアチームの活動報告	11
認知症ケアサポートチームを立ち上げました	11
退院後訪問指導を行っています	11
なかよし保育園紹介	12

Campus News

日本口腔腫瘍学会の理事長に就任されました	12
小児科学教室の嶋教授の研究結果が NEJM 電子版に掲載されました	12
東日本大震災被災地の福島県内で本学学生がボランティア活動を行いました	13
コンソーシアム実習 (奈良医大・早大連携講座) が開催されました	13
附属病院内でアート展を開催しました	13
平成 30 年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました	13
解剖慰霊祭を執り行いました	13
実験動物慰霊祭を執り行いました	14
本学医学科 6 年生大梅さん筆頭著者の論文が J Hypertens 電子版に掲載されました	14
奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	14
シーズ集を発行しました	14

Winner Report

第 28 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会で優秀賞を受賞しました	15
第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会で 69th JSOG Congress Encouragement Award を受賞しました	15
第 113 回日本内科学会総会で優秀演題賞を受賞しました	15
第 113 回日本精神神経学会学術総会で国際学会発表賞を受賞しました	15
第 56 回日本消化器がん検診学会総会で第 35 回有賀記念学会賞を受賞しました	16
摂食・嚥下障害看護認定看護師の資格を取得しました	16
日本ペインクリニック学会第 51 回大会で最優秀演題賞を受賞しました	16
Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging 第 18 回シンポジウムで最優秀ポスター賞を受賞しました	16
第 5 回アジア統合失調症学会 (5th Asian Congress of Schizophrenia Research) で ベストポスター賞 (Best poster award) を受賞しました	17
第 53 回日本医学放射線学会秋季臨床大会で教育展示優秀賞を受賞しました	17
第 53 回日本医学放射線学会秋季臨床大会で優秀ポスター賞を受賞しました	17
第 34 回日本ハイパーサーミア学会において優秀論文発表賞 (口演) を受賞しました	17

Information

2017 年奈良県立医科大学大学祭 白檀生祭 [Break the Wall ~ Build the Bridge ~]	18
平成 30 年度入試日程【医学部】	18
公開講座情報	19

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	19
メディア掲載情報／編集後記	20

理事長・学長からのメッセージ vol.5

学報第60号の理事長・学長からのメッセージにおいて、「奈良医大はどのような大学を目指すべきか皆さんの考えをお聞かせください」と題して、これまでの取り組みについてのご意見を伺いました。学報第61号では、寄せられた多くの意見の中から「新キャンパスに反対」「MBTに反対」という2つのご意見を取り上げ、補足説明をいたしました。また、本学が国内トップレベルの医科大学を目指して歩を進めている例を挙げました。今回は、その後の進捗等について、いくつか報告させていただきたいと思います。

1. 奈良県立医科大学陽子線がん治療研究センターの開設

既に報告しましたとおり、橿原市にある現キャンパス外の施設として、国立循環器病研究センターと市立奈良病院内に「奈良県立医科大学連携大学院」を開設しています。また、阪奈中央病院内にも「奈良県立医科大学スポーツ医学研究センター」を設置しております。この度、これらに加えて、県内の病院に「奈良県立医科大学陽子線治療研究センター」を開設することになりました。

最近、日本電産株式会社の永守会長から約70億円の寄附を受けて京都府立医大に陽子線がん治療施設が設置されるとの報道があったことは、みなさんの記憶にも新しいと思います。現在、日本にある粒子線がん治療施設は全国で重粒子線5カ所、陽子線12カ所のみです。世界的にも稀少な陽子線治療施設を、奈良医大が中心となって運用できることは大変喜ばしいことです。治療のみならず研究分野においても世界に先駆けた成果が出るものと期待しております。

(注) 陽子線治療とは：陽子線という放射線を使用する高精度の先端的な放射線治療です。従来の放射線治療で使用しているX線は体の中を透過しますが、陽子線は体内の途中で正確に止めることができますので、がんの病巣に集中させることができ、がん以外の部分の被ばくは著しく減らすことが可能です。(放射線腫瘍医学 長谷川正俊教授)

2. THE (Times Higher Education) 世界大学ランキング 2018 にランクイン

本学が「THE世界大学ランキング2018」に初めてランクイン致しました。奈良医大の世界ランクは801-1000位で、日本の大学の中では30位タイです。(ランクは200位以内のクラスにおいては1位きざみですが、201位以上では幅を持って表示されており、グループ内の順位はアルファベット順で記載されています。)この成果もみなさまのご尽力の結果だと深く感謝申し上げます。

詳しくは<https://japanuniversityrankings.jp/topics/00008/>をご覧ください。



▲ 2017年9月28日のMBTコンソーシアム会員会議の部会会議(グループ討議)



▶ 2017年9月28日のMBTコンソーシアム会員会議の全体会議

3. MBTの進捗

MBT (Medicine-Based Town 医学を基礎とするまちづくり) 構想は順調に進展し、産学連携による実証実験が始まりました。最近では、内閣総理大臣補佐官が本学に視察に訪れるなど、政府からも注目されるようになっていきます。今後さらに活動を拡大・推進することを狙って、第1回 MBTコンソーシアム会員会議(平成29年9月28日、厳樞会館)を開催致しました。会議には企業61社から110人、奈良医大教職員45人が参加し、熱気あふれる会議となりました。

この会議では、MBTコンソーシアム宣言「私たち MBTコンソーシアム参加企業・団体は、お互いの信頼のもと、力を合わせて、少子高齢社会のためのまちづくり、産業創生、地方創生を通じて社会に貢献します。」が採択されました。また5つの部会が発足しました。これらの部会は、今後奈良医大の関連教室の指導・協力のもと、上記宣言に沿った活動を行ってまいります。なお、5つの部会は以下の通りです。

- ①富士通を中心とした見守り支援部会(参加：9社)
- ②凸版印刷を中心としたビッグデータ活用部会(参加：8社)
- ③関西電力を中心としたスマートコミュニティ部会(参加：5社)
- ④健康都市デザイン研究所を中心とした健康創造都市・健康創造産業部会(参加：13社)
- ⑤奈良医大 MBT 研究所を中心とした MBT 研究所産学連携部会(参加：19社)

※()内の数字は参加企業数で、いずれにも属さない企業は、フリーディスカッションに参加。

奈良医大を中心とした MBT 活動は、医師・看護師をはじめとした医療従事者の社会貢献活動として、全国に広がっていくものと期待しています。ぜひ奈良医大の多くの教室に参加していただき、企業の持つ力を各教室の発展につなげていただきたいと思います。

産業創生、地方創生、まちづくり 医学を通じて全国企業と地場企業が連携プロジェクトを作る

MBTコンソーシアム参加企業(企業名の公開を承諾いただいた企業)一覧 2017年9月

iTest、アズマ、アベックス、池利、イマナカ、イムラ、イムラ封筒、インデックスコンサルティング、エクスレイヤー、江崎グリコ(株)、N's planning、NTT データ経営研究所、MS&AD 基礎研究所、オーイーエム、大阪ガス、岡伸、興村組、染研、関西電力、北関東総合警備保障、キリン、近鉄ケーブルネットワーク、きんでん奈良支店、グランドール免疫研究所、KDDI、KTX 株式会社、健康都市デザイン研究所、奈良県立医科大学、小山、崎山組、佐藤薬品工業、産業経済新聞社大阪本社、サンロード、三和澱粉工業、JSR、JVC ケンウッド、ピクチャーエンタテインメント、資生堂、シャープ、昭和西川、新生、積水ハウス、損害保険ジャパン日本興亜、大和ガス、大和ハウス工業総合技術研究所、タカゾノテクノロジ、タカトリ、ツムラ、テクリコ、テルモ、東京急行電鉄東急病院、ドクターネット、凸版印刷、奈良精工、南都銀行橿原支店、医療法人西井会、医療法人康仁会西の京病院、日本ペーパリングインゲルハイム、日本生命保険、日本タクトティールタッチ協会、日本無線、日本ユニシス、ニューロンネットワーク、パシフィックコンサルタンツ、ひばりラボ、ヴァイタル・インフォメーション、不二精機、富士通、船井電機、プロアシスト、プロライト、ヘルスグリッド、ホシデン、松田電気工業、まつえ、丸一銅管、みずほ銀行、三井住友銀行、村田製作所、明豊ファシリティアークス、メディケア・リンク、モード、モード・ユニット工房、ヤマト運輸 奈良主管支店、ユアサ M&B、医療法人友誼会奈良友誼会病院、ユニオンツール、ライフビジネスウェザー、ロート製薬、ワタキューセイモア近畿支店(90社 50音順)

看護学科オープンキャンパス2017を開催しました

平成29年8月5日に看護学科オープンキャンパスを開催し、大講堂を埋め尽くすほどの450名を超える多くの方にご参加いただきました。施設見学途中から大雨と雷に見舞われましたが、無事に終えることができました。

はじめに、車谷医学部長が開催の挨拶を行い、引き続き、飯田看護学科長が「看護学科を目指す人のために」というテーマで看護学が始まった“原点”と、“これからの看護のあり方”についての講演を行いました。



医学部長挨拶

参加者からの意見

- ・自分の思っていた看護の概念とは少し違い、関心を持った。
- ・医学と看護学の違い、看護師のあるべき姿がよくわかった。
- ・奈良医大が目指す医療像がはっきりと見えた。



看護学科長講演

本学在學生、本学卒業後に本学附属病院に勤務する看護師も参加した『先輩からのメッセージ』は、実際の学生生活や看護師の仕事内容を具体的に聞ける絶好の機会となっており、毎年人気のプログラムです。

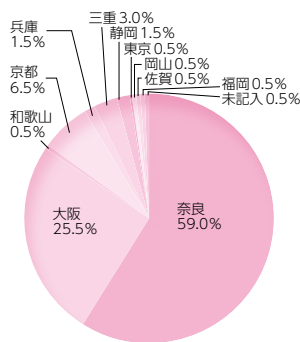
参加者からの意見

- ・「専門学校」とは違う「大学」の良さを知れた。
- ・先輩方の話を聞くことで将来の自分の姿を想像できました。
- ・充実した学生生活を送っている先輩を見て奈良医大で学びたいという気持ちが強くなりました。

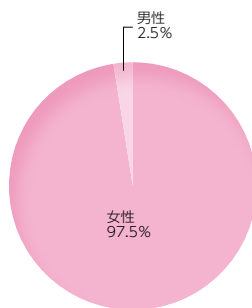


先輩からのメッセージ

参加者の都道府県別



参加者の性別



続いて、石澤看護教育部長が学科紹介及び入試概要説明として、複雑な入試の仕組みなどを参加者にわかりやすく丁寧に説明しました。

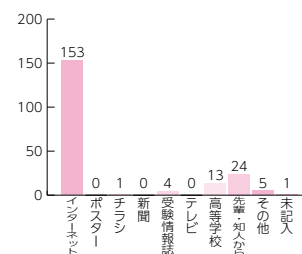
参加者からの意見

- ・附属病院との連携や教員の方のサポートなどが確認できたので良かった。
- ・どのような環境で看護師を目指すのかがとてもわかりやすかった。

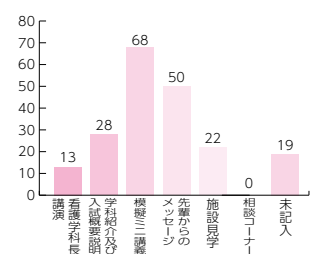


学科紹介及び入試概要説明会

オープンキャンパスを知ったきっかけ



印象に残ったプログラム



事前予約(120名分)が2日間で埋まるほど人気の『施設見学』では、学生が実習を行っている実習室、看護師として勤務することになる本学附属病院の病棟等を見学します。普段見ることのできない施設を見ることはもちろん、見学先で説明をした職員の方の丁寧な対応も好評でした。

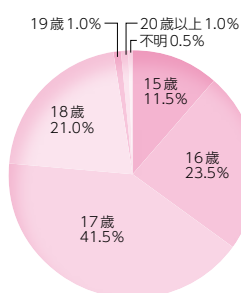
参加者からの意見

- ・実際の病棟を見て、モチベーションが上がった。
- ・これからこんな知識を学ぶんだと自分自身考えさせられた1日でした。
- ・看護師の方のお話がとても良かった。

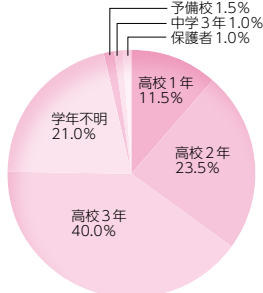


施設見学

参加者の年齢別



参加者の学年別



今年の『模擬ミニ講義』では、昨年度にも参加者から好評を得ました在宅看護学の小竹教授が「在宅看護ってなあに？—その人の人生の終わりを支える“Being with you”とは—」をテーマに講演を行いました。

参加者からの意見

- ・在宅医療の大変なこと、大事なことがわかった。
- ・看護は最後まで、そばで寄り添うことが大切だとわかった。
- ・わかりやすい説明と感動する映像がとても良かった。



模擬ミニ講義

『相談コーナー』では、本学の教職員、在學生及び卒業生が、入試のことから学生生活、また卒業後の仕事の様子などについて、受験生や保護者からの様々な相談に応じました。

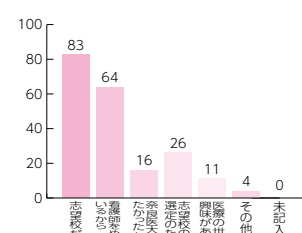


教職員による相談コーナー

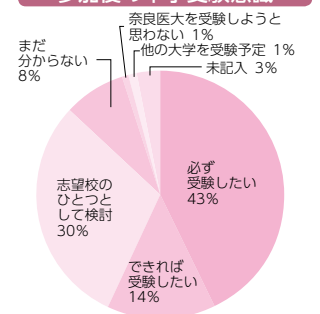


在學生・卒業生による相談コーナー

オープンキャンパスに参加した動機



参加後の本学受験意識



西日本医科学生総合体育大会が開催されました

～第 69 回西医体総合 23 位～ ハンドボール部・ベスト 4 女子軟式テニス部・ベスト 8 第 69 回西医体総合体育大会

今年も西日本医科学生総合体育大会が開催されました。総合成績は 23 位でした。競技別では、ハンドボール部と男子硬式テニス部がベスト 4、女子軟式テニス部、サッカー部、男子バレーボール部、男子空手部が上位の成績を収めました。

- ◇期 間：平成 29 年 8 月 7 日～ 8 月 20 日
- ◇主 管：中国・四国ブロック
- ◇代表主管校：山口大学
- ◇参加大学数：計 44 校
- ◇競 技 数：21

競 技 名		成 績
硬式テニス	男	4 位
	女	一回戦敗退
軟式テニス	男	一回戦敗退
	女	ベスト 8
サッカー		ベスト 8
野球		二回戦敗退
バスケットボール	男	三回戦敗退
	女	一回戦敗退
バレーボール	男	ベスト 8
	女	一回戦敗退
バドミントン	男	二回戦敗退
	女	二回戦敗退
弓道	男	14 位
	女	23 位
柔道		決勝トーナメント一回戦敗退
卓球	男	一回戦敗退
	女	一回戦敗退
陸上	男	団体入賞無し
	女	団体入賞無し
水泳	男	15 位
	女	団体入賞無し
空手	男	ベスト 8
	女	予選敗退
合気道		団体入賞無し
剣道	男	予選敗退
	女	決勝トーナメント一回戦敗退
ハンドボール		予選突破 4 位
ラグビー		二回戦敗退
ゴルフ		33 位



ハンドボール部 医学科 4 年 丸田 剛史

第 69 回西医体ハンドボール部門は平成 29 年 8 月 15 日 (火) から 8 月 17 日 (木) にかけて大分県にて開催されました。本大会において、ハンドボール部は 10 数年ぶりとなるベスト 4 という結果を残すことができました。去年、5 位でベスト 4 に残れなかった悔しさを糧に、部員一丸となって、練習に取り組んできました。来年はさらに高みを目指してベスト 2、さらには優勝できるように部員一同精進していく所存です。

最後になりましたが、このような結果になりましたのも、日頃の OB・OG の方々のお力添えがあってこそのことだと思っております。

日々ご支援、ご協力して下さっている OB・OG の方々、また遠方にもかかわらず応援に来て下さった方々、本当にありがとうございました。これからも何卒、宜しくお願い致します。



ソフトテニス部 医学科 4 年 刀禰 千波

第 69 回西医体ソフトテニス部門は平成 29 年 8 月 9 日 (水) から 11 日 (金) まで兵庫県で開催されました。本大会において、団体戦女子部はベスト 8、個人戦は女子部ベスト 16、32、男子部ベスト 32 という成績を残すことができました。勝ち進むごとに一体感が高まり、楽しい西医体となりました。また、女子部は繰り上げではありますが、団体戦で全医体に出場しました。

去年、強い先輩方が引退され、団体戦メンバーに変更があり、秋・春シーズンは良い結果を残せませんでした。しかし西医体でこのような結果を残せたのは、OB・OG の先生方の日頃からのご支援のおかげだと思っております。この場をお借りして感謝申し上げます。来年は男女ともにより良い成績を残せるよう、一層精進していく所存です。今後ご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。本当にありがとうございました。

平成28年度計画の業務実績に対する評価結果

第2期中期計画の4年目にあたる平成28年度計画の業務実績について、県の評価委員会による評価結果が通知されました。

28年度計画については、「おおむね実施している」と判断され、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては「順調に進んでいる」という評価を受けました。また、項目別評価8項目のうち、7項目は「順調に進んでいる」と評定されましたが、繰越欠損金の解消に向けた取組が課題とされた『法人運営』に関しては、「詳細な経営分析を行い、設立団体である奈良県とも協議し、持続的な運営について検討を深められたい」との意見を付した上で、「おおむね順調に進んでいる」と評定されました。

第2期中期計画期間の4年が終了した時点での進捗状況は良好であるものの、中期目標・計画の達成には、今回の評価委員会の意見も踏まえ、残る2年間の着実な取組が求められます。

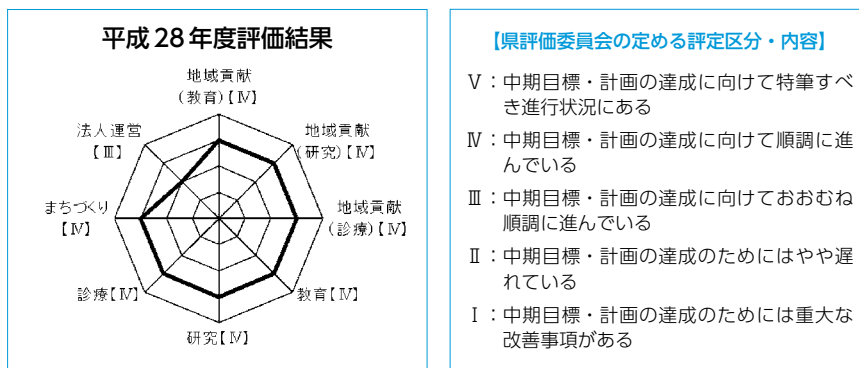
平成28年度評価結果や中期計画、各年度計

画等については、本学ホームページに掲載しています。

また、今年度から第3期中期計画の策定に向けた議論を開始します。

第3期中期計画の策定に当たっては、数十年先のあるべき姿を見据え、法人構成員全員で策定した「奈良県立医科大学の将来像」を踏まえ、平成31年度から6年間の取組を具体化する必要があります。

皆さまのご理解と積極的なご参画をお願いいたします。



附属病院A棟の改修が始まります

本学は、教育・研究部門の新キャンパスへの全面移転と、現キャンパスでの附属病院施設の抜本的充実を図ることとしていますが、まもなく築60年を迎える臨床医学研究棟の老朽化は、教職員の安全確保、基幹災害拠点病院としての機能確保の観点から、キャンパス整備を待つことなく緊急に解決しなければならない課題です。

そこで、現キャンパスでの施設整備が実現するまでの間、昨年E棟に機能移転した後のA棟等を仮移転先として活用することにより、地震時の安全確保を図ることとし、学内関係各位のご協力の下、計画策定、設計を進めてきました。今般、設計が完了し来年度から着工の運びになりましたので、内容を改めてご紹介します。

臨床医学研究棟の諸室のうち講座研究室は、A棟の5階から7階に移転します。各室は、現在の機能を確保できる面積、配

置とする一方、フリーザーを専用室に集約、新たに仮眠室、シャワー室を備えるなど、研究環境に配慮した内容としています。また、病院教授室と会議室は管理棟1階に確保することとしています。

A棟の4階は、E棟整備後もA棟に残る眼科・皮膚科・形成外科・総合診療科の病床を7階から移転し、この機に4人部屋化、総合診療科病床の集約を行うこととしています。

以上のような多様な内容となるため、改修工事と工事後の移転は、病院の機能に支障を来さないよう、順を追って進める必要があります。下図のような3段階で、来年度当初から平成31年夏にかけて実施する予定です。

大規模な工事となるため、期間中はご不便をおかけしますが、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

	棟	改修箇所	改修後用途
STEP1	A棟	5階北	4階南から医局等を移転
		4階	7階北から病棟を移転
STEP2	A棟	5階南	臨床医学研究棟から研究室を移転 (STEP3後)
		管理棟	7階南から病院教授室を移転 臨床医学研究棟から会議室を移転 (STEP3後)
STEP3	A棟	6～7階	臨床医学研究棟から研究室を移転
		地階	臨床医学研究棟から更衣室を移転

新キャンパス整備の現状と今後の予定を紹介します

新キャンパスの整備については、前々号で御紹介したとおり、4月に発表した『整備イメージ』をたたき台として、今後、速やかに整備内容を具体化・決定し、完成に向けた工程を着実に進めていくこととしていますが、今号では、新キャンパス整備に関する現在の進捗状況と、今後の予定をご紹介します。

1 現在の進捗状況

【用地買収】

新キャンパスの敷地は、現キャンパスの南西約1kmに位置する旧農業研究開発センター跡地が県から提供されます。跡地の面積は約10haありますが、形状が不整形で、当該地区の高さ制限(15m)下での建築には面積も十分とは言えません。

そこで、平成27年度から県が周辺の用地買収を進めており、現在までに約2haを取得しています。



【建設準備工程】

建物建設に向けた準備工程として、これまでに埋蔵文化財の試掘調査(H26～H28)、土壌汚染調査(H28)、旧農業研究開発センター施設の除却(H29)等を着実に進めています。



2 今後の予定

以下の工程を経て着工し、竣工後現キャンパスから引越をして新キャンパスの完成です。

【用地買収】 合理的・効率的なキャンパス配置のための敷地の整形化、面積確保には、県の更なる用地買収が必要となります。

【許認可手続】 新キャンパス敷地は様々な土地利用上の規制を受けているため、行政庁への必要な許認可手続を進めます。

主な許認可手続

市街化調整区域	新築不可。可能にするため都市計画審議会を経て橿原市の決定を得ることが必要
里道・水路の付替	周辺住民が利用するキャンパス敷地内里道・水路の付替に関する地元調整が必要
農地転用	農地であるキャンパス敷地を非農地へ転用するため、農林水産大臣へ協議が必要

【埋蔵文化財発掘調査(本掘)】 新キャンパスの建物の底地となる土地全部について、発掘調査を行う必要があり、事前協議のうえ、県教育委員会(橿原考古学研究所)において調査を実施してもらいます。

新キャンパスの完成までには、関係者との調整や発掘調査の結果など流動的な要素も含まれますが、引き続き、医大と県が緊密に連携して着実な進捗を図りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

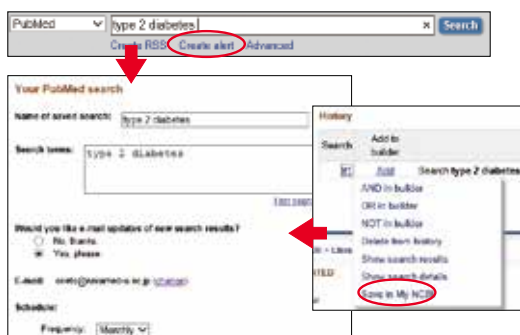
検索マスターへの道 (第10回) PubMed をカスタマイズ～ My NCBI ～

医学分野の文献検索に欠かせないデータベースといえばPubMedですね。今回はPubMedをもっと便利にするカスタマイズ機能、My NCBIについてご紹介します。

My NCBIを登録すると、①検索式の保存とアラート、②検索結果の保存、③文献管理、④絞り込み条件の設定、⑤画面のカスタマイズなどができます。そのために、まずはアカウントを作成します。PubMedトップ画面右上「Sign in to NCBI」からMy NCBIサインイン画面に移動し、「Register for an NCBI account」からアカウントを作ります。アカウントはメールアドレスだけで登録できます。

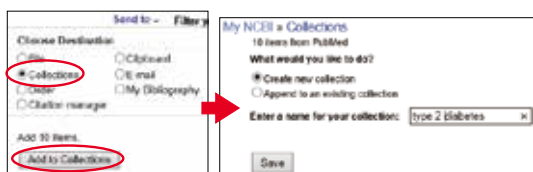
①検索式の保存とアラート

PubMedで検索を実行し検索ボックス下の「Create alert」をクリックすると、検索式の保存画面に移ります。検索式名をつけ、定期的にメールで最新の検索結果を受け取るかを選んで保存します。「Advanced search」の検索番号(#〇)から「Save in My NCBI」を選んでも保存できます。保存した検索式はMy NCBIトップ画面の「Saved Searches」から呼び出すことができます。



②検索結果の保存

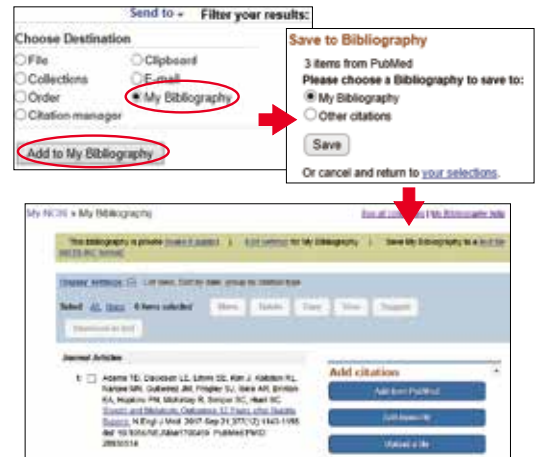
PubMedの検索結果から保存したい文献にチェックを入れます(チェックをしなければ最初の1000件が保存されます)。「Send to」から「Collections」を選択し、「Add to Collections」をクリックします。「Create new collection」を選び、Collection名をつけて保存します。前に作ったCollectionに追加したい場合は、「Append to an existing collection」を選びます。各CollectionはPublic/Privateで公開を設定でき、Publicを選ぶとダイレクトURLが発行され、自分以外の人に知らせたり、ブログなどに載せることができます。



③文献管理

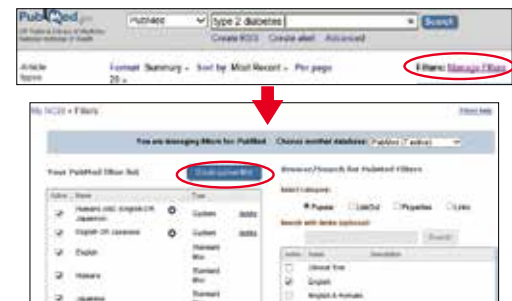
②と同様、PubMedの検索結果から保存したい文献にチェックを入れ、「Send to」から「My Bibliography」を選択し、「Add to My Bibliography」をクリックします。「My Bibliography」か「Other citations」を選択し、保存します。

「My Bibliography」にはPubMedにない文献も手入力または他のデータベースや文献管理ソフトから抽出したファイルを追加することができます。また、作った文献リストをテキストファイルでダウンロードすることができます。



④絞り込み条件の設定

PubMed検索後、右上の「Manage Filters」を選ぶと、絞り込み条件設定画面に移ります。右側によく利用される絞り込み条件が出ているほか、左上「Create custom filter」でオリジナルのfilterを作成できます。



⑤画面のカスタマイズ

My NCBI画面右上の「NCBI Site Preferences」をクリックすると、個人設定画面に移ります。「Common Preferences」では検索語のハイライト表示色などの設定、「PubMed Preferences」では1ページあたりの検索結果件数、Abstract表示形式でMeSHの表示開閉などの設定ができます。

My NCBIを使えば、いつも使う検索式を保存したり、自分の見やすい表示形式にするなど、より便利に検索することができます。PubMedをよく利用するという方はぜひカスタマイズしてみてください。また、同じようなカスタマイズ機能が医中誌Webにもあります。医中誌WebのMy医中誌では、検索結果の保存はできませんが、検索式の保存や絞り込み条件など設定できますので、こちらもぜひお試しください。ご不明な点がございましたら図書館スタッフまでお尋ねください。

【参考図書】

1. 岩下愛. 図解PubMedの使い方, 第7版, 日本医学図書館協会, 2016
2. 諏訪部直子. わかりやすい医中誌Web検索ガイド, 日本医学図書館協会, 2013

1. MBTの主要な動き

(1) 第1回MBTコンソーシアム会員会議の開催及びMBTコンソーシアム宣言採択

平成29年9月26日、厳樞会館にてMBTコンソーシアム全会員を対象にして、第1回MBTコンソーシアム会員会議を開催しました。MBTコンソーシアムでは、5つの部会活動を進めており、この中から産業創出の芽づくりや産学連携による実証実験の動きが出てまいりました。(図1) 本会議には企業から110人、奈良医大教職員が45人と、150人を超える参加者がありました。



会員会議の全景

会員会議交流会・相談会の模様

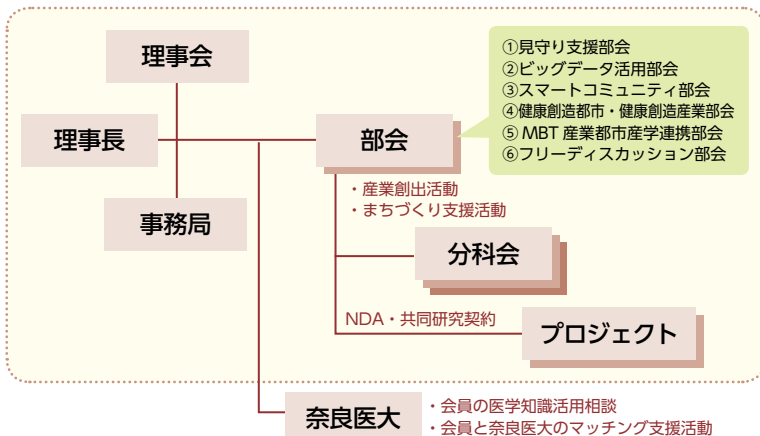
また、『私たちMBTコンソーシアム参加企業・団体は、お互いの信頼のもと力を合わせて、少子高齢社会のためのまちづくり、産業創生、地方創生を通じて社会に貢献します』というMBTコンソーシアム宣言が全会一致で採択されました。

(2) 妊産婦の見守り支援サービスに向けた共同実証の開始

本学と富士通は、MBTコンソーシアムに「周産期・育児サポート部会」を設立しました。この部会の活動の一環として、附属病院に通院している周産期の妊産婦約30名の電話による健康相談を中心とした共同実証を、10月1日から1月31日まで実施中です。

本実証では、看護師が24時間365日常駐する富士通グループのコールセンターと本学が連携し、妊産婦からの健康相談の一次対応や定期的な健康状態の確認などを行います。その後、妊産婦、医師、医療スタッフなどからのフィードバックや対応履歴から、妊産婦や子育て世代を総合的にサポートするサービスの有用性や事業性を検証し、妊産婦の血圧や体重などのデータと連携したIoTによる見守りサービスの提供や、健康相談へのAI活用などの開発を進めていくこととしています。(図2)

図1：MBTコンソーシアム活動体制図



(3) MBT 研究所、栃木県塩谷郡高根沢町、北関東総合警備保障株式会社の連携協定締結

平成29年10月6日、MBT研究所は、栃木県塩谷郡高根沢町及び北関東総合警備保障(株)の取り組みに連携協力するため、「安全の視点を加えた、健康づくりの仕組みの構築」に関する連携協定を締結しました。

本協定は、MBT研究所が、高根沢町及び北関東総合警備保障(株)と緊密に連携し、「安全の視点を加えた、健康づくりの仕組みの構築」という理念のもと、双方のノウハウ及びインフラを出し合い、効果的な取り組みを相互協力のもと実施していくものです。

2. MBTの普及

(1) 京都スマートシティエキスポ2017特別講演会

平成29年9月29日、けいはんなプラザメインホールにおいて、特別講演会「長寿社会への挑戦」が開催され、細井学長と吉野病院院長福岡篤彦先生が「MBT(医学を基礎とするまちづくり)における笑い与健康」の題目で講演をしました。約500名の参加者があり、盛況な講演会となりました。



京都スマートシティエキスポ特別講演会で講演する学長

(2) (一社)有機エレクトロニクス研究会(JOEM)ワークショップ

平成29年8月25日、新宿NSビルにおいて、JOEM主催のワークショップ「デジタルヘルスケア」が開催され、細井学長が「医学を基礎とするまちづくり」の題目で講演しました。ワークショップには日本の有機エレクトロニクス分野をリードする方々が参集しました。



JOEMワークショップで講演する学長

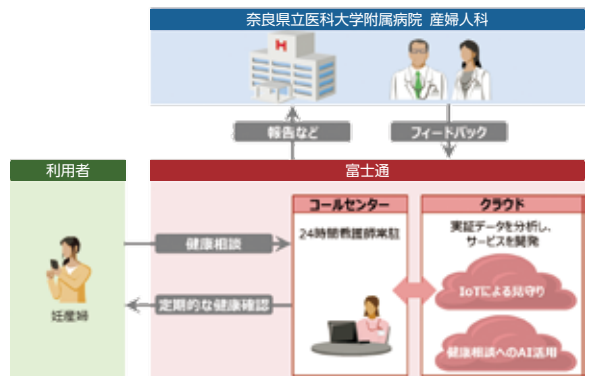


図2：MBTコンソーシアム「周産期・育児サポート部会」にて実施する実証イメージ

E 棟部門紹介

E 棟7階 (小児センター)

E棟7階小児センターは、昨年秋、旧病棟から移転してきました。病床数は38床で、乳児期～15歳までの小児を対象としています。22歳までのAYA世代の小児疾患に関わる入院を受け入れています。主な疾患は、血友病、心疾患、腎疾患、てんかん、腫瘍など多岐にわたります。また、外科的手術（脳外科、整形、外科、泌尿器、耳鼻咽喉科等）を受ける子どもの入院も受けています。

小児センターは、現在奈良県下唯一の24時間体制で高度小児医療を実践する施設として機能しており、小児医療の最後の砦になっています。私たち医療スタッフは、重篤な症例や緊急入院が多い中、子どもの権利を尊重し、成長発達を促し倫理的な側面に配慮しながら、日々の医療・看護を提供しています。また、子ども達を取り巻く多職種との連携も大切にしています。例えば、重症心身障害をもつ子どもたちは、人工呼吸器を装着した状態で自宅へ帰ります。家族が自宅退院を希望し、意思確認が出来た時から退院支援の介入が始まります。退院支援カンファレンスを地域医療連携室、訪問看護師、地域保健センターや市役所担当者、養護学校教諭と活発に行い、自宅退院に向けての情報共有や在宅物品の準備など1つのチームとなって取り組んでいます。さらに、まだ実施回数は少ないですが退院

前後の自宅訪問を小児専門看護師、病棟スタッフ、地域の訪問看護師と3者で行い、在宅療養での問題点や課題を抽出し、対策を立てる取り組みを開始しています。子どもや家族が安心して自宅へ帰れるよう、今後も退院前後自宅訪問に積極的に取り組むよう計画しています。最後になりましたが、新病棟の壁紙には、ホスピタルアートが導入され、かわいい動物たちが子どもたちや家族を癒してくれています。このアートは、アートプロジェクトの協力の基、医療スタッフ全員で、子どもたちへの思いを寄せて描きました。そんな子どもたちのことが大好きなスタッフが、毎日笑顔で絶やさず医療・看護を提供している病



棟です。

小児センターのプレイルーム



小児センタースタッフ



クリニカルクラウンと一緒に



小児センタースタッフの紹介ボード

排尿ケアチームの活動報告

平成28年5月から、入院中に患者さんが「可能な限り自立した排尿ができる」ことを目指して、排尿ケアチームを立ち上げました。現在は、C棟4階・B棟5階・B棟6階の3病棟で活動しており、今後も活動範囲を拡大していく予定です。患者さんに適切な排尿ケアを行うには、排尿ケアチームと病棟看護師との協力が大切であり、チームと病棟の橋渡しをする役割を担うリンクナースの存在がとても重要です。今年度から排尿ケアリンクナース会も発足し、適切な排尿ケアの啓発・スタッフへの教育などを行っています。

急性期病院において、見過ごされがちな排尿ケアですが、患者さんに関わるスタッフが一丸となって、ひと

りひとりの状態に合わせた個別ケアを実践することができるように、働きかけていきたいと思っています。



排尿ケアチーム活動



排尿ケアチームスタッフ

認知症ケアサポートチームを立ち上げました

平成29年4月より認知症ケアサポートチームを立ち上げました。メンバーは精神医療センター所属の医師、看護師、精神保健福祉士の多職種で構成されたチームで、毎週水曜日に回診を行い、入院患者さんの認知症治療やケアが適切に行われているかどうか、療養環境が整っているかどうかなどを評価し助言を行っています。現在はB棟5階、C棟5階をモデル病棟としてそれぞれの専門性を活かしながら、認知症加算1を取得し活動を展開しています。

認知症患者が安心して入院生活を送れるように、チームと病棟スタッフが力を合わせて、今後も取り組んでいきたいと思っています。気軽に相談頂けるチームを目指し、10月より始まる精神科リエゾンチームと共によりしく願っています。



認知症ケアサポートチームスタッフ

退院後訪問指導を行っています

患者・家族にとって、住み慣れた我が家への退院は、喜ばしいことであると同時にさまざまな不安を抱えての在宅療養生活の始まりでもあります。患者・家族が安心して過ごすためには、入院中の指導・ケアと外来や地域との連携・調整が重要であることを意識して、私たち看護師は支援を行っています。

今回、退院後訪問を実施した患者さんは、ストーマを造設され、排泄経路が変更されてからも造設前と変わらない日常生活を送れることを目標に、入院中から指導を行い、退院後ストーマ装具交換の指導を行いました。退院前に訪問看護と連携を行い、退院後の訪問日程を調整し、訪問看護師主体で入浴介助とケアを施行し、その後病棟看護師と共にストーマ装具交換を施行しました。共にケアを行うことで訪問看護師に病棟でのケア方法を実際見てもらい、共有することができました。また本人に退院後の自宅での様

子や内服管理、ADL(日常生活動作)等についても伺うことができ、地域と連携した関わりの必要性を痛感しました。



訪問指導の様子

なかよし保育園紹介

なかよし保育園 園長 堀田 由起

現在、90名定員の保育園運営として、大学や病院職員の皆さんのお子さんをお預かりしています。有り難いことに年々申し込みが増えてきています。

保育園では、子ども達が心もからだもすくすく育つように、積極的に外遊びをして体を丈夫に、そして設定保育で年齢に応じた内容で製作や歌、手遊びなどに取り組んでいます。

また、季節の行事も充実させ、七夕や節分、ひなまつりといった行事から、運動会や発表会といった保護者の方に参観をしていただく行事も実施しています。

そして、園外保育として、3～5歳だけではありませんが、橿原市昆虫館へ出かけ、子ども達にいつもと違った保育の経験を与える場も設けています。

小学校入学を控える4、5歳児のお子さんには小学校の先取り学習として文字・数・英語を学ばせちゃれんじ教室を実施しています。その他、体操教室やネイティブ講師による英会話教室も実施しています。お子さんにとって一日の多くの時間を過ごす保育園は、楽しい友だちとの遊びの場でもあり、学びの場でもあります。

園内の掲示板に、季節の行事の様子やちゃれんじ教室の予定な

どを掲示して保護者の皆様にお知らせをしています。日々の保育の内容を、保護者の皆様にわかりやすく伝えるよう努めています。

毎日の給食は、保育園で調理しており、温かい食事を提供し、ご好評をいただいています。離乳食、アレルギー食にも対応しています。

保育園では、基本的な生活習慣を養い、友だちとのふれあいの中で社会性を身に付けることができ、また保護者の皆さんが安心して働き続けられる保育園となるよう職員一同目指してまいりたいと思います。

なお、保育の一層の充実を目指していることから、大学職員の皆さんで保育士資格をお持ちの方がお知り合いでいらっしゃれば、紹介していただくと有り難いです。

※なかよし保育園の運営は平成27年4月1日～(株)プライムツワンに委託しています。



キャンパスニュース

Campus News

1.26

日本口腔腫瘍学会の 理事長に就任されました

口腔外科学 教授 桐田 忠昭

過日、理事会にて推挙され一般社団法人 日本口腔腫瘍学会の理事長に就任させていただきました。本学会は、1983年に設立され、現在会員数は1800名を超え、ますます発展が期待されております。学会の目的は、「口腔領域に発生する腫瘍（がん、良性腫瘍）の診断と治療および予防について、研究・解明し、もって医療の進歩普及と国民の福祉の増進に寄与すること」です。本学会の発展のために尽力させていただきたいとともに、奈良医大の名を上げられるよう精進させていただきたいと存じます。よろしくお願いたします。



7.10

小児科学教室の嶋教授の 研究成果がNEJM 電子版に掲載されました

小児科学教室の嶋緑倫教授が中外製薬（株）と共同研究を進めているバイスペシフィック抗体エミシズマブについて、昨年5月の国内第Ⅰ相臨床試験の研究成果に続き、第Ⅲ相国際共同臨床試験の研究成果についても、



嶋緑倫教授

世界でもっとも権威ある総合医学雑誌の一つであるThe New England Journal of Medicine (NEJM) 電子版に掲載されました。

エミシズマブは、これまでの血友病Aの治療の未解決の問題を解決できるポテンシャルを有していますので、世界中の血友病Aの患者さんに貢献することが期待されています。

8.22 ~ 24 東日本大震災被災地の福島県内で本学学生がボランティア活動を行いました

看護学科 3年 森岡 伸子

平成 23 年から続けている福島県内での活動も今回で 12 回目となりました。この活動での福島訪問は 4 回目で、初めて訪れた際、発災から 4 年以上経過しても復旧工事が続いており、津波で流された家の基礎部分だけが残った光景にとても衝撃を受けました。それから毎年福島での活動を続けていく中で、海岸には堤防ができ、避難区域の解除により仮設住宅から自宅へ戻る方や復興住宅に移る方が増えてくるなど徐々に復興が進んでいると感じました。しかし、6 年半経った今でも放射線の影響による帰宅困難区域もあるのが現状です。

災害はいつ起きるか分からないので、事前に対策を考え、発生時に医療職者としてどう行動すべきかを考えておく必要があります。被災地福島を訪れることで実際に自分の目で見、感じることができるこの活動は今後も続けていきたいです。



ボランティア活動を行った本学の学生たち

8.22 ~ 25 コンソーシアム実習 (奈良医大・早大連携講座) が開催されました

平成 29 年 8 月 22 日から 25 日まで、本学において奈良県立医科大学・早稲田大学連携講座を開催しました。本学からは、地域医療学講座 周藤俊治先生、公衆衛生学講座 岡本佐和子先生、早稲田大学からは、長谷川惠一先生、野口晴子先生、岩崎尚子先生にご講義いただきました。

学生の声 医学科 2年 辻本 藍子さん

早稲田大学の学生さんは色々な学科から実習に来ていて、意識を高く持ち勉強されているという印象を受け、刺激的でした。授業では、奈良県の医療はもちろん、医療経済、ICT についてなど、医学部の授業では普段聞くことのない話も多く、新鮮でした。授業中のグループワークでは、法学部の方から、法律上の観点からの意見を聞き、視野を広げることができました。様々な考えを持つ人たちと関わることができ、良い経験になりました。



9.21 解剖慰霊祭を執り行いました

平成 29 年 9 月 21 日午後 3 時から大講堂において、第 71 回解剖慰霊祭を執り行いました。系統解剖及び病理解剖に貴重なご遺体を提供していただいた方々のご遺族や、奈良医大白菊会会員、関係機関の方々、教職員、学生等、合わせて約 350 名の方々が参列されました。

今年は新たに、系統解剖 39 柱、病理解剖 71 柱の計 110 柱の御霊を加えて、6,463 柱の御霊をお祀りさせていただきました。参列者全員の黙祷の後、学長の祭文奉読、医学科 2 年生総代の津島祐斗さんの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。医学の発展と医学教育のために自らの体を捧げてくださった方々の崇高なご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



御礼の言葉を述べる細井学長

8.28 ~ 9.2 附属病院内でアート展を開催しました

附属病院では、平成 29 年 8 月 28 日から 6 日間、2 回目となる「特別支援学校と病院を結ぶアート展」を開催しました。来客者は、約 1,500 人にのぼり、多くの方に特別支援学校児童・生徒や卒業生の力作を鑑賞していただきました。

このアート展については、今年度も高等養護学校生徒、本学学生、附属病院で働く障害者が協力して準備を進めましたが、更に、障害のある人ない人の交流の機会を広げることを目的に、オープニングでは、畝傍高校と高等養護学校の生徒による合唱や、本学附属病院で働く障害者からの日頃の仕事の紹介といったメニューもプログラムに加えました。

また、聴覚に障害のある方にも楽しんでいただくため、手話通訳の方にも参加していただきました。

附属病院では、今後とも、障害者雇用の促進をはじめ、障害者理解の取り組みを進めて参りますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い致します。



9.13 9.22 9.26 平成 30 年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました

平成 30 年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました。

ロバスト・ジャパン株式会社 中安豪氏には、「科研費申請の戦略的アプローチ 2017」と題し科研費応募のテクニックに関して、本学生理学第二講座 堀江恭二教授には「科研費申請書の作成について」と題して審査委員を経験された視点からの応募書類作成時の注意点等についてそれぞれご講演いただきました。質疑では、応募を検討されている先生方から踏み込んだ質問がされるなど活発なやりとりがありました。

今後も科研費獲得・運用に向けて、様々なサポートを行っていきたく考えています。



ロバスト・ジャパン (株) 中安氏



生理学第二講座 堀江恭二 教授

Campus News

9.25 実験動物慰霊祭を執り行いました

実験動物慰霊祭を執り行いました。この行事は実験動物の尊い生命に対し哀悼の意を表すもので、毎年実施しています。

学長の祭文奉読後、多くの関係職員及び学生が献花を行いました。

私たち生命医学に携わる者は、人間はもちろん動物の生命も尊重しなければなりません。しかし、やむをえず動物実験を行うときは、動物に対して博愛的な敬愛を払い、犠牲になる動物数の削減に努めることが必要です。

そして動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として、広く社会に還元できるよう努めることが私たちの責務です。



献花を行う細井学長

9.28 奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

聖路加国際病院 リウマチ膠原病センター 副医長 津田篤太郎先生を講師にお迎えし、第2回「実技で学ぶ漢方」～ココを診れば（触れば）漢方的所見がわかる～を開催しました。4回シリーズの2回目で、今回は、実技編ということで聴講の先生方へ腹診など漢方的所見を解説されました。

講義終了後も先生の周りに集まって、脈診の診断方法など熱心に論議を交わっていました。

次回の予定は、

12月7日(木) 18:30～20:00 厳櫃会館 大ホール

「漢方薬の使い方①」

～日常診療に役立つ漢方薬の使い方をご紹介します～

多数の先生方のご参加をお待ちしております。



講演中の津田先生



指導の様子

9.27 本学医学科6年生大梅さん筆頭著者の論文が J Hypertens 電子版に掲載されました

医学部医学科6年 疫学・予防医学講座 医科学研究生 大梅 成崇

【掲載論文】

Oume M, Obayashi K, Asai Y, Ogura M, Takeuchi K, Tai Y, Kurumatani N, Saeki K. **Objective sleep quality and nighttime blood pressure in the general elderly population: a cross-sectional study of the HEIJO-KYO cohort.** J Hypertens. 2017 (in press) doi: 10.1097/HJH.0000000000001569.

本学医学部医学科6年の大梅成崇 医科学研究生(本学疫学・予防医学講座)が筆頭著者の論文が、血圧分野の専門誌として影響力のある欧州高血圧学会誌「Journal of Hypertension」電子版に掲載されました。本論文は本学疫学・予防医学講座で平成22年から実施している前向きコホート研究(平城京スタディ)の横断解析で、アクチグラフ(腕時計型体動計)により客観的に測定した睡眠の質の低下が夜間血圧の上昇と関連していることを定量的に明らかにしました。大梅研究生は医学科4年の教室配属実習をきっかけに疫学の勉強を開始し、地道な努力を重ねて今回の国際誌への研究発表に至りました。習得した分析手法や科学的ディスカッションの経験を生かして、卒業後も臨床医として、研究活動を継続してくれることを期待します。



10.1 シーズ集を発行しました

今年度は、74名の先生方のシーズ集を発行しました。

シーズ集は、本学に在職する研究者とその研究活動に関する情報を広く社会に紹介し、本学の知的財産を産学官連携活動に有効に活用していくことを目指し作成しており、本学ホームページで公開する他、冊子版は公的機関や企業の研究開発部門等にも配布します。

大学は自ら事業化が出来ませんので、研究成果を社会に還元するためには、企業等との連携が不可欠です。まずは、大学が何を研究しているのか知ってもらわないことには始まりません。シーズ集は本学と企業等を結ぶ架け橋の役割を果たしてくれると期待しています。



展示中のシーズ集



シーズ集の表紙

Winner Report

3.11

第28回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会で優秀賞を受賞しました

内科学第一 医員 杉浦 純一（現：市立奈良病院勤務）

平成 29 年 3 月 11 日に開催された 第 28 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会において、一般口演部門で優秀賞を受賞しました。受賞演題名は『繰り返す薬剤溶出バルーン拡張後ステント内再狭窄の新生内膜組織性状の変化を OCT で追跡した一例』です。薬剤溶出性バルーンによって、新生内膜がどのように変化するのは未だ明らかではなく、今回の受賞を機に解明していけるように邁進していく所存です。

本受賞にあたり、御指導してくださった第一内科学教室斎藤教授をはじめ、指導医の先生方に深く御礼申し上げます。

4.13
~ 16

第69回日本産科婦人科学会学術講演会で69th JSOG Congress Encouragement Awardを受賞しました

産婦人科 助教 伊東 史学（現：奈良県総合医療センター勤務）

平成 29 年 4 月 13 日から 16 日に広島市で行われた第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会において上記 Award を受賞しました。タイトルは「Redox balance and heme oxygenase 1 state in iron-induced carcinogenesis in ovarian endometrioma」でした。卵巣チョコレート嚢胞の癌化には、嚢胞内血液の鉄による酸化ストレスが関連していること、そして heme oxygenase 1 がその微小環境に関わっていることを示唆する研究成果でした。ひとえに、素晴らしいアイデアを以て御指導いただいた小林教授をはじめ諸先輩方のお陰であると思います。ここに感謝申し上げます。



4.15

第113回日本内科学会総会で優秀演題賞を受賞しました

内科学第一 医員 板野 明子

このたび、さる平成 29 年 4 月 15 日の内科学会総会の「内科ことはじめ」で、「急性骨髄性白血病に対する骨髄移植後の慢性GVHDでステロイド内服中に ANCA 関連糸球体腎炎を発症した一例」という題で発表し、優秀演題賞をいただきました。血液内科の先生をはじめ、その他多くの先生方にもご指導いただき、すてきな賞を頂けたこと、心より感謝申し上げます。今後いろいろな場での発表に一生懸命取り組みたいと思います。

6.22
~ 24

第113回日本精神神経学会学術総会で国際学会発表賞を受賞しました

精神医学講座 助教 鳥塚 通弘

平成 29 年 6 月 22 日から 24 日にかけて、名古屋国際会議場で開催された第 113 回日本精神神経学会学術総会において、国際学会発表賞 シンポジウム組織部門 を受賞しました。

この賞は、World Federation of Biological Psychiatry 2016 において、“Multimodal studies of excitatory and inhibitory signaling balance in schizophrenia and autism” という演題名で企画したシンポジウムの成果が評価されたものです。同シンポジウムには本講座からも 4 名が演者として参加し、各々が行っている生物学的精神医学研究の最新の内容について発表し、好評を得ました。精神科領域における国内最大の学会で受賞できたことは大変名誉なことです。今後も、本学で行っている活動を国際的に発信できるように、日々の研究に邁進したいと思います。



Winner Report

6.23 第56回日本消化器がん検診学会総会で 6.24 第35回有賀記念学会賞を受賞しました

放射線科 講師 伊藤 高広

平成 29 年 6 月 23 ～ 24 日に茨城県つくば市で行われました第 56 回日本消化器がん検診学会総会にて第 35 回有賀記念学会賞を受賞しました。受賞対象業績は「胃がん検診活動及び胃がんリスク分類を考慮した胃がん X 線検診の診断基準における研究」です。当教室ならびに旧腫瘍放射線医学教室の諸先輩方のご業績を受け継ぎ、現在も吉川公彦教授、平井都始子病院教授のご指導の下、継続して胃がん検診へ取り組んできた努力が認められたものと感謝いたしております。今後も消化器がん検診の精度向上に努力してまいります。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いたします。



7.9 摂食・嚥下障害看護認定看護師の 資格を取得しました

B病棟5階 看護師 齋藤 和博

「食べる」ことはエネルギーを摂取するという生命活動に必要な行為であるとともに、生きる上でかけがえのない喜びでもあります。食べることができなくなった時、その苦しみは想像を超えるものだと思います。その苦しみに寄り添い、食べることを通して患者の QOL 向上に向けた関わりを専門的に行ないたいと思い、今年度摂食・嚥下障害看護認定看護師の資格を取得しました。

現在脳神経外科病棟に所属し、病棟で摂食嚥下障害を抱えた患者さんに対して、病棟スタッフや他の医療職と協力し嚥下機能改善に向けたケアを行なっています。今後は院内全体のスタッフが摂食嚥下障害に気づき、多職種で摂食嚥下障害患者がその人らしく生きることを支援できるよう、摂食嚥下障害看護の向上に向けた取り組みを行なっていきたいと考えています。



7.22 日本ペインクリニック学会第51回 大会で最優秀演題賞を受賞しました

麻酔科 助教 木本 勝大

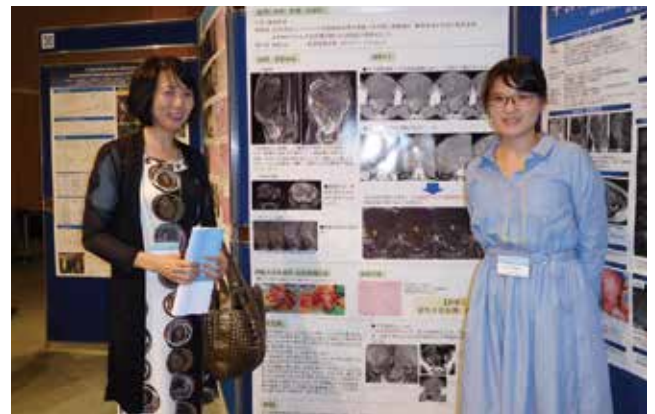
日本ペインクリニック学会第 51 回大会において「脳脊髄液漏出症に対する硬膜外自家血パッチ療法の効果の予測因子に関する検討」という発表で最優秀演題賞を頂きました。確定診断後、透視下で硬膜外自家血パッチ療法を施行すれば、少量の自家血でも治療することを示しました。本研究は、合併症を回避し、安全性を高めるのに非常に有意義であると考えます。受賞に際し、ご指導下さった渡邊恵介先生、川口昌彦先生に深謝いたします。



9.1 Japanese Society for the Advancement of Women's 9.2 Imaging第18回シンポジウムで最優秀ポスター賞を受賞しました

放射線科 医員 米今 知佐

この度、平成 29 年 9 月 1 日から 2 日に行われた JSAWI 第 18 回シンポジウムにおいて、「術前に診断し得た巨大筋腫を伴った子宮捻転の 1 例」の演題で、最優秀ポスター賞を受賞しました。子宮捻転はまれな病態であり、特に術前に診断することが困難とされています。本症例はカンファレンスを経て、特徴的な子宮卵巣に向かう脈管の交差像とその手術所見が対比できました。当医局のみならず、産婦人科の先生方にも御指導を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。



9.1
~3

第5回アジア統合失調症学会 (5th Asian Congress of Schizophrenia Research) でベスト ポスター賞 (Best poster award) を受賞しました

精神医学講座 助教 紀本 創兵

平成29年9月1日～9月3日までタイで開催された5th Asian Congress of Schizophrenia Researchのポスター発表セッションにおいて、本学精神医学講座の紀本創兵助教が、Best poster awardを受賞しました。演題「Different Patterns of Blood Oxygenation in the Prefrontal Cortex in Clinical Phenotypes of Schizophrenia and Bipolar Disorder」は、近赤外線スペクトロスコピーを用いて、局所脳血流変化と認知機能課題との関連から、統合失調症と双極性感情障害などの認知機能を有する精神疾患を生物学的に区分できる可能性を示した研究です。紀本医師はこれまで精神疾患におけるトランスレーショナルリサーチの実践しており、今後も研究発展に貢献してくれるものと考えます。



9.8
~10

第53回日本医学放射線学会秋季臨床大会で 教育展示優秀賞を受賞しました

放射線科 医員 米今 知佐

この度、第53回日本医学放射線学会秋季臨床大会において、教育展示優秀賞を受賞することができました。受賞演題は「女性生殖器領域における捻転の画像所見」です。緊急手術の可能性が高い産婦人科領域の捻転は早期診断が肝要であり、CTやMRIといった画像診断の担う役割は大きいと考えます。今回の発表では、これまで診断し得た女性生殖器領域の捻転について、捻転茎の所見に着目してわかりやすく発表致しました。本発表に際し、御指導いただきました多くの先生方に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。受賞を励みに今後益々精進して参りたいと思います。



9.8
~10

第53回日本医学放射線学会秋季臨床大会で 優秀ポスター賞を受賞しました

放射線科 講師 伊藤 高広

平成29年9月8～10日、愛媛県松山市で開催されました日本医学放射線学会秋季臨床大会において優秀ポスター賞を受賞しました。演題名は「直腸・肛門管のX線造影診断」です。この場をお借りして吉川公彦教授ならびに本学中央内視鏡部小山文一病院教授のご指導に感謝申し上げます。大腸検査法の中で古典的な注腸X線造影法は施行者の技量により有用性が大きく左右され、しっかりと次の世代へ伝承していく必要があります。今後も最新技術と古典的診断法の融合により診療レベルの向上を目指して努力する所存であります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

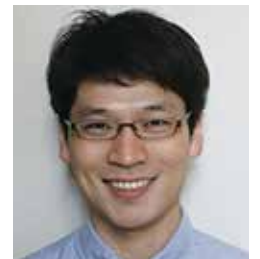


9.15
9.16

第34回日本ハイパーサーミア学会において 優秀論文発表賞 (口演) を受賞しました

未来基礎医学教室 特任講師 森 英一朗

平成29年9月15日・16日に、京都で開催された、第34回日本ハイパーサーミア学会で口演発表し、優秀論文発表賞(口演)を受賞しました。演題は、「ストレス顆粒におけるLCドメインの機能」です。細胞のストレス応答時に形成されるストレス顆粒における、low complexity (LC) ドメインの役割について発表しました。本受賞を励みに、LCドメインの生物学的な機能解析を通じて、様々な疾患の分子メカニズムを解明していきたいと思っております。



2017年奈良県立医科大学大学祭 白檀生祭「Break the Wall ~ Build the Bridge ~」

【プレイベント】

「なりきりキッズドクター！！～今日からきみもお医者さん～」

場 所：@イオンモール橿原 1F サンシャインコート

日 時：9月30日(土) 10:00～17:00

概 要：診察体験、問診体験、AED体験、BLS講習、救急車展示

【白檀生祭】

日 時：11月4日(土)・5日(日) 両日とも9:00～18:00

地域の方々に、より医療を身近に感じてもらったうえで、楽しんでいただける企画が盛りだくさんです！

①シンポジウム

場 所：本学大講堂

日 時：11月4日(土)

10:00～ 細井裕司学長

11:00～ 山内基雄先生

14:00～ 澤口俊之先生「夢を叶える脳」



また、現在有名アスリートに講演していただけるよう交渉中です。正式に決定次第2017年度白檀生祭HP並びにTwitterアカウントにて発表させていただきます。

②よしもお笑いライブ！

場 所：大講堂前

屋外特設ステージ



日 時：11月5日(日) 17:00～

③医学展示企画

1. 体育館企画 子供から大人まで楽しめる企画を用意しております！
 血圧測定、聴診、問診体験、救命体験、子供用白衣展示、介護ロボット etc…

2. 病院内見学 循環器内科、麻酔科、整形外科、法医学、消化器外科、動物実験 etc…

※病院内見学は事前予約につき注意！詳細・予約は白檀生祭HPまで！

④なら・かしはらグルメフェア

場 所：本学 教養教育棟前駐輪場

日 時：11月4日(土)・5日(日) 両日とも10:00～18:00

出店店舗：お食事処やくぜん(11月5日のみ)、炙り鯛だしらめん・つけ麺サクラ、お好み焼きはないちもんめ、珈琲亭、餃子ダイニングホワイトハウス、奈良医大弘済会

⑤出張！今井町衆市！

日 時：11月4日(土)・5日(日) 両日とも9:00～18:00

概 要：恒例となった今井町とのコラボ企画。今年もたくさんのお店を予定！

書道、吉野杉製品、奈良一閑張、麻ハンドメイド小物、お抹茶、和菓子 などなど

⑥ステージ企画

日 時：11月4日(土)・5日(日) 9:00～18:00

概 要：バンドライブ、クイズ大会、ビンゴ大会、ダンスステージ等企画多数

11月5日(日) 13:00～

吉田孝義先生のトークショーあります！

⑦白檀生祭オリジナルキャラクター

『しょうとくた医師』くん！

一昨年誕生した本学祭ならびに奈良医大の公式キャラクター。白檀生祭のそこかしこであなたをお出迎えしま“すいこ”！



平成30年度入試日程【医学部】

学 科	入試区分	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合格発表 (予定)
医 学 科	推 薦*1	38	平成29年12月12日(火) ～12月15日(金)	平成30年1月27日(土) 1月28日(日)	平成30年2月6日(火)
	前 期	22	平成30年1月22日(月) ～1月31日(水)	平成30年2月25日(日) 2月26日(月)	平成30年3月6日(火)
	後 期	53		平成30年3月12日(月) 3月13日(火)	平成30年3月20日(火)
看 護 学 科	推 薦*2	35	平成29年11月1日(水) ・11月2日(木)	平成29年11月26日(日)	平成29年12月12日(火)
	社会人	5			
	前 期*3	45	平成30年1月22日(月) ～1月31日(水)	平成30年2月25日(日) 2月26日(月)	平成30年3月6日(火)

*1 医学科推薦選抜試験は緊急医師確保特別入学試験13名と地域枠入学試験25名を実施します。

*2 看護学科推薦選抜試験は地域枠のみ募集します。

*3 看護学科一般選抜試験(前期日程)は、一般枠35名と地域枠10名を募集します。

詳しくはホームページで確認してください(<http://www.naramed-u.ac.jp/university/nyushijoho/index.html>)

看護学科の推薦・社会人入試募集要項は9月中旬から配布中です。医学科推薦入試募集要項は11月上旬、その他の募集要項は11月下旬から配布予定です。

公開講座情報

漢方薬の使い方

開催日：①平成29年12月7日(木)
②平成30年2月8日(木)

場所：奈良県立医科大学蔵書会館大ホール

概要：①日常診療に役立つ漢方薬の使い方をご紹介
②漢方薬が効かなかった時の次の一手を知る

講演者：聖路加国際病院リウマチ膠原病センター
副院長 津田 篤太郎 先生

対象：県民 定員：300名

備考：事前申し込み不要 参加無料

問合せ先：奈良県立医科大学 研究推進課 0744-29-8913
奈良県立医科大学 教育開発センター 0744-29-8832
(株) ツムラ奈良営業所 0742-33-0058

第4回市民公開講座 ～腎泌尿器疾患で知っておいてほしいこと～

開催日：平成29年11月11日(土) 13:00～16:30

場所：メルパルクホール

概要：「腎泌尿器疾患で知っておいてほしいこと～腎がん・前立腺がん・前立腺肥大症～」というテーマで各分野の専門医師が診断、治療法などについて分かりやすく説明。

講演者：泌尿器科学 藤本 清秀 教授 他

対象：県民 定員：800名

備考：事前申し込み必要 参加無料

問合せ先：(株) Jプロデュース内(市民公開講座事務局)
06-4964-8860

平成29年度後期 奈良県立医科大学公開講座「くらしと医学」

開催日：平成30年2月11日(日) 13:00～

場所：奈良県文化会館国際ホール

概要：「口から始まる健康長寿」をテーマに、健康長寿QOL向上に口腔ケアが直結していることについて、基調講演とディスカッションを行う。

講演者：口腔外科学 桐田 忠明 教授 他

対象：県民 定員：1,300名

備考：事前申し込み不要 参加無料

問合せ先：奈良県立医科大学 県民健康増進支援センター
0744-22-3051 内線：3608

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、平成29年9月までに累計1,419件のご寄附をいただいています。

なお、今号では、平成29年7月～9月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

【個人】

◆100万円以上1,000万円未満

大坂 正浩 様 大西 武勇 様 北村 弥 様

◆30万円以上100万円未満

上田 和孝 様 榎本 泰久 様 小山 文一 様
鈴木 裕 様 東条 尚 様 内藤 宏昌 様
廣森 達郎 様 細井 裕司 様 前川 基継 様
三上 洋 様 三橋 二良 様

掲載を希望されないご寄附者様 3名

◆10万円以上30万円未満

上山 健一 様 大坂 幸子 様 緒方 正雄 様
岡本 英之 様 奥 正之 様 北村 久子 様
北村 里奈 様 平 康二 様 中川 一郎 様
中谷 勝紀 様 細井 裕樹 様 堀川 巴清 様
松本 雅充 様 峯 克彰 様 村上 華奈 様
吉村 隆司 様

掲載を希望されないご寄附者様 3名

◆10万円未満

北村 蓮 様 関 京子 様 内藤希実子 様
馬淵 幸子 様

掲載を希望されないご寄附者様 2名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

中川 順夫 様 林 洋 様 廣橋 里奈 様
山本 俊宏 様

(五十音順)

平成29年6月以前にご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.named-u.ac.jp/~hiyakukikin/>)に掲載しております。

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2017年	7月14日	医療・介護総合情報サイト 『医療介護 Cbnews マネジメント』 公衆衛生学 教授 今村 知明 講師 野田 龍也	奈良医大がとりまとめた急性期指標についてのインタビュー
	7月31日	読売新聞 法医学 教授 羽竹 勝彦	司法解剖についてコメント
	8月4日	奈良新聞 医療技術センター 主査 梶原 聡司	紅綬褒章授章式
	8月13日	産経新聞	— 奈良県立医科大学健康フェア 2017
	8月13日	読売新聞	— 奈良県立医科大学健康フェア 2017
	8月21日	奈良新聞	— 奈良県立医科大学健康フェア 2017
	8月21日	朝日新聞 疫学・予防医学 講師 大林 賢史	寝室の明るさとうつ症状の関連について

編集後記

皆様からのご協力をいただき第62号学報を発行する事ができました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。

さて、本誌7ページでもご紹介させていただいていますが、現在本学は新しいキャンパスを整備予定です。本学の将来像実現の場となる新キャンパスの完成に向け、教職員一丸となって取り組んで参りますので、皆様の一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

